

## はじめに

飯野喜四郎は、埼玉郡上蓮田村(現 蓮田市大字蓮田)に、同村の名主役を務めた飯野吉之丞の三男として生まれました。明治18年(1885)に父が病没、兄たちも早世していたため、17歳の喜四郎が家督を継ぎました。喜四郎は19歳で蓮田駅前に飯野運送店を開業し、22歳のときには第1回帝国議会招集以前から立憲自由党(後に自由党)の結成に加わり政治活動を始めました。そして生涯にわたり政治家、実業家として活躍し、埼玉県と郷里蓮田の経済や産業の発展に尽くしました。

本展では、飯野家から寄贈された約1万6千点の「飯野家文書」の資料から、その功績を紹介します。

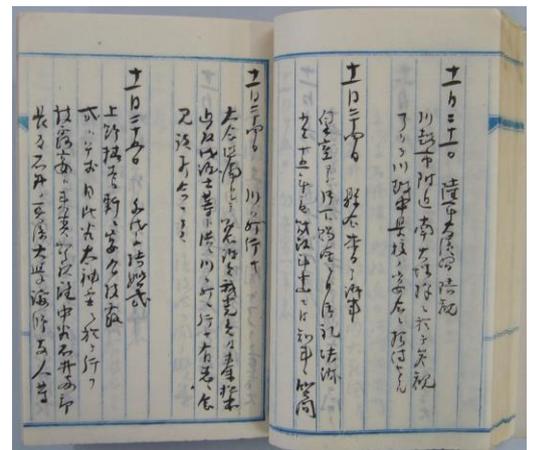
## I 飯野家と喜四郎

喜四郎は、自らの足跡を綴った記録を多く残しました。そのなかでも、「重要日誌」(飯野家92~119)は、喜四郎35歳の明治35年(1902)から、亡くなる3年前の昭和12年(1937)までの20冊が残っています。日誌には、喜四郎が地域の発展のため、日々奔走する様子が詳しくうかがえます。

また、飯野家の人々について記した部分からは、喜四郎の家族へのまなざしが示されています。

〔「飯野家文書」にみられる、喜四郎本人による記録〕

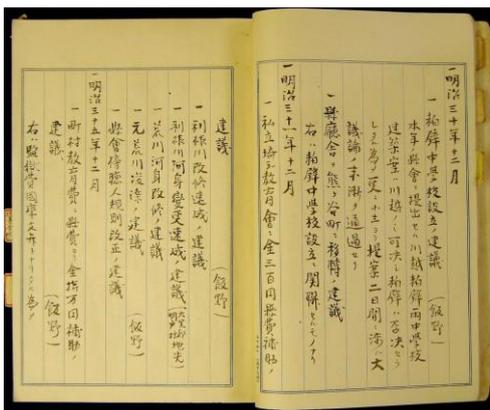
「経歴記録」(112)、「備忘録」(113)、「経歴大要」(123)、「懐中日記」(128~131)



【写真：資料2-③「重要日誌」大正14年(1925)】

## II 政治家として実業家として

### ①教育への尽力



喜四郎は、県内の教育の向上に大きな功績を残しました。

明治28年(1895)11月、喜四郎は粕壁に県立中学校を設立しようとして県会で建議しましたが、川越のみ設立が可決され、粕壁は否決されました。喜四郎は粘り強く提案し続け、明治30年12月に埼玉県第四尋常中学校の設立が決まりました(同年、県立粕壁中学校に改称、現 県立春日部高等学校)。

また、立憲政友会県支部の重鎮であった喜四郎は、同会の原内閣の高等学校増設計画を知り、招致活動を行いました。その活動が実り、大正10年(1921)に旧制浦和高等学校(現 埼玉大学)が設立されました。

【写真：資料5「経歴記録」昭和12年(1937)】

### ②武州鉄道の設立と経営

明治43年(1910)、喜四郎は、岩槻・蓮田の有志と中央軽便鉄道株式会社を設立しました。翌年、社名を中央鉄道株式会社に変更し、大正8年(1919)には武州鉄道株式会社と改めました。

当初は北千住から日光までをつなぐ構想でしたが、第一次世界大戦や戦後恐慌、日中戦争の影響もあり、計画が見直

